

# 報告書

2021 年 11 月 12 日

所属	山スクール トレッキング 2	氏名	尾崎敦史
(1) 概要			
日時	2021/11/7 9時00分～16時00分	場所	大岩岳
テーマ	読図		
講師	・氷見講師		
目的	山スクール T2 座学実技-7		

## (2) 報告事項

### 講習内容&所感

(講習内容) 大岩岳にて読図を行いました。今回は事前に配布された地形図に5箇所のチェックポイントが設定され、各自で各チェックポイントへのルートを書き込み当日を迎えました。当日は事前に書き込んだルートを基にスクール生が主体となって各チェックポイントへの順序・ルートを決定しました。スタート地点の武田尾駅から大岩岳に向けて出発しましたが、途中で道が崩落していましたので、来た道に戻り道場駅から再スタートしました。結果、4箇所のチェックポイントを通過し講習を終了しました。道迷いでやってはいけないこと。①体の向きを変える(体を回転させる)、②走る、③近道をする。

所感)今回は一部登山道ではないルートを進みました。藪漕ぎは非常に大変、その一言に尽きます。道なき道を歩いて感じたのはコンパスの重要性です。自分がどの方向に進みたいのか地形図で居場所を確認しながら整地を行い、行きたい方向が決まればコンパスを頼りにその方向へ進む。藪漕ぎでは体の向きがコロコロ変わるので、自分がどの方向に向いているのかわからなくなります。そういうことでは、今回の実技ではコンパスの重要性を再確認できたと思います。その他、ルート間違いについて、地形図では谷筋を進むルートが示されていたのにも関わらず谷筋から離れて進んで行きました。若干の違和感を感じながらもどこかで道が合流するのだと思い込み進みました。今後は、地形図に示されているルートに沿って進むために、谷筋を進むルートであれば谷から離れないようルート読みをする。姿勢を低くして踏み跡がないか観察をする。などを意識してルートファインディングを行いたいと思います。

### 全体を振り返って

藪漕ぎは非常に大変でした。整備されている登山道の有り難さを感じた実技でした。登山道から少しでも離れて藪の中に入ればコンパス無しではどの方向に向いているのかまったくわからなくなる。この経験ができたことで登山道から離れる怖さを知れたと思います。地図読み、ルートファインディングは目的地への傾斜ができる限り緩い場所を通過する。また、登りは急登であっても下りではできる限り緩やかな傾斜を探す。自ら進んで道なき道を進むのは現時点では考え難いですが、道迷いやその状況に追い込まれた時には、今回の実技を思い出して冷静に行動したいと思います。